

付録Ⅰ 市のあらまし

長岡京市民憲章

(昭和 52 年 11 月 3 日制定)

長岡京市の古い歴史と伝統は心にうるおいを与え、西山の豊かな緑は明日への英気を養ってくれます。

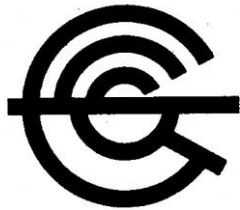
この恵まれた歴史と自然を生かし、みんなが力を合わせて生きがいのあるまちをつくるために、この憲章を定めます。

わたくしたち長岡京市民は、

1. 緑と水を大切に、健康で美しい環境のまちをつくりましょう。
1. 明るい笑顔と助け合う心を大切に、住みよいまちをつくりましょう。
1. 学ぶ心と歴史遺産を大切に、文化の豊かなまちをつくりましょう。
1. 働く喜びと家庭のうるおいを大切に、産業とくらしの調和のとれたまちをつくりましょう。
1. 平和と人権を大切に、心のふれあいまちをつくりましょう。

長岡京市章

(昭和 47 年 10 月 1 日告示)



昭和 34 年、長岡町制定 10 周年記念に市民から募集し市の徽章に選定したものです。

「長」の文字を図案化し、重なった円が住民の和と発展する年輪を表しています。

長岡京市歌

(昭和 48 年 7 月 28 日制定)

(一) 緑はもえる長岡の
歴史は長く美しく
自然の光り空にみち
ほこりは高く長岡京

(二) きりしまつつじ咲きかおり
ますぐに伸びる若竹の
いきおい強く栄えゆく
希望明るく長岡京

(三) 未来を開く産業の
豊かな市(まち)に住いして
文化をうたうこえたかく
ちからみなぎる長岡京

作詞 山崎愛子
補作 藤本浩一
作曲 高橋半 (なかば)

市の花 きりしまつつじ

(昭和 44 年 10 月制定)



Kirishimatsutsuji昭和 44 年秋、長岡町制 20 周年を記念して、平和な、住みよい、美しいまちづくりを願い、また、町を象徴するのにふさわしい花として、長岡天満宮八条ヶ池畔の Kirishimatsutsujiが町の花に制定されました。市制施行後も市の花として市民や訪問客からも愛されています。

市の木 もみじ

(昭和 47 年 10 月制定)

市制施行を記念し、市民にとって最も身近に親しまれ、また、緑のまち長岡京市のイメージにふさわしいとして、モミジが市の木に制定されました。



市の鳥 メジロ

(平成 4 年 10 月制定)



長岡京市では、平成 4 年 10 月 1 日市制施行 20 周年を記念し、市の鳥を公募しました。その結果、市の鳥として「メジロ」が制定されました。

メジロは、名前の通り、目の周囲が白い輪の模様で「チー、チー」と愛らしく鳴く鳥です。

地 勢

(1) 位 置

京都盆地の西南部に位置し、北は向日市・京都市、東は京都市、南は大山崎町、西は西山連峰を境に大阪府と接している。東西約 6.5 キロメートル、南北約 4.3 キロメートル、総面積 19.17 平方キロメートルで東西に長い長方形をなしています。

総面積の約 65 パーセントが可住地の平たん部であり、残りの西山山地は、市街地の背景として本市の景観の主体となっています。西山山地は、近畿圏近郊緑地保全区域に指定され、景観の保全が図られています。中央部は住宅・商業・工業・農業に広く利用されています。東部は工場適地に指定されており、工業が盛んです。河川は、小畑川が東部を南北に、小泉川が西南部をほぼ東西に貫流して桂川に注いでいます。

交通は、東部を JR 東海道本線、中央部を阪急京都線がそれぞれ並行して通過し、京都へは JR 長岡京駅・阪急長岡天神駅から 10～15 分、大阪へは 26～40 分で行くことができます。

また、阪急バスが両駅から大山崎町・向日市へと連絡しています。さらに、東海道本線の東側には東海道新幹線・名神高速道路・国道 171 号線が縦走しており、交通の便に恵まれています。

気候は、山城盆地特有の晴れの日が多く、おおむね温和で、京都市内の盆地気候よりもしのぎやすいです。

(2) 市の面積

19.17 平方キロメートル

(3) 市の広がり

東西 6.5 キロメートル

南北 4.3 キロメートル

(4) 海 抜

最高 490 メートル

最低 10 メートル

(平成 19 年 10 月 1 日現在)



東経 135 度 39 分～43 分

北緯 34 度 54 分～57 分

市の概況

市政施行

昭和 47 年 10 月 1 日

人口・世帯の状況

世帯数	81,065 世帯	
人口	男	39,185 人
	女	41,880 人
	合計	81,065 人

(令和 3 年 5 月 1 日現在)



明智光秀の娘、細川ガラシャ（明智玉）が新婚時代を過ごした城を再現した「勝竜寺城公園」。公園周辺では毎年輿入れ行列を再現した「長岡京ガラシャ祭」が開催されています。

まちづくりの基本方針

長岡京市第 4 次総合計画（平成 28 年度～令和 12 年度）に基づき、基本構想「住みたい 住みつけたい 悠久の都 長岡京」の実現に向けて、各種施策に取り組んでいます。

沿革

本市の歴史は古く、約 2 万～3 万年前の後期旧石器時代から人々の活動が確認されています。その後も豊かな水と緑に恵まれ、現在に至るまで連綿と人々の生活の場となってきました。特に古墳時代では各時期の首長墓が築かれ、常に中央王権とつながっていたことがわかっています。また 6 世紀初めには継体天皇による「弟国宮」が、8 世紀末には桓武天皇による「長岡京」と二度にわたって宮都が置かれました。中世には多くの戦禍に巻き込まれますが、人々はたくましく生き抜き、江戸時代には、村々は皇室・公家・寺社等に細分して領有されますが、平和な農村として、京都の生活を支えつつ、明治に至ります。

明治 22 年、町村制の実施によって江戸時代の村 15 ケ村が合併して新神足村、海印寺村、乙訓村の 3 ケ村となりました。人々は平たん部では米・麦・茶などの農産物を、西部丘陵地では特産物「たけのこ」を産出する農村として、豊かな土地、大都市の近郊、交通の至便さなどに恵まれて発展を続けてきました。

昭和 24 年には 3 ケ村が合併し、長岡町が誕生しました。昭和 34 年ごろからは日本経済のめざましい成長にともない、京都・大阪の衛星都市という立地条件の良さから人々が流入し、また工場の進出によって急速に都市化が進行しました。

人口は昭和 45 年には 5 万人を超え、昭和 47 年 10 月 1 日に市制を施行し「長岡京市」となりました。市名は古代の都「長岡京」から命名したものです。その後も人口は増え続け、平成 23 年 5 月 9 日には 8 万人を突破しています。

平成 25 年 12 月に開業した阪急西山天王山駅や平成 25 年 4 月に開通した京都縦貫自動車道第二外環状道路といった鉄道と高速道路をつなぐ新たな公共交通の完成による利便性の高まりによって、現在も人口の微増傾向は続いています。